



WAVE

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

61

2016年9月

Contents

- 2 介護保険法改正
「介護を社会で支える」理念はどこへ

- 3.4 小さいけれど良質なサービスを提供!!
ワーカーズ・コレクティブ

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会に新しい仲間が増えました。さいたま市大原の埼玉県障害者交流センター（以下交流センター）内のレストラン事業を、施設の管理団体である埼玉県社会福祉事業団（以下福祉事業団）から受託したワーカーズです。このレストランを以前に受託していた企業が撤退することになり、2016年3月に福祉事業団から連合会会員ワーカーズに相談があったことがきっかけでした。

交流センターは利用者がスポーツ・文化活動を行う場やそのための支援を提供し、障害を持つ人達も社会との交流を進められるようつくられた全国でも数少ないユニバーサルな施設です。

ワーカーズ連合会は、2016年6月に新しいレストランをオープンさせるワーカーズを作るために人材探しから始め、集まった人たちが短期間で見事に開業しました。

事業を通してつながり、結びあいたい

「埼玉県障害者交流センター内のレストランで働きませんか！」という埼玉ワーカーズ連合会の呼びかけチラシで集まったのは、食に感心を持ち、暮らし方などにこだわりを持つさいたま市在住の40代から60代の人々でした。

第1回発起人が4月26日に開かれ、その後毎週会議を持ち、ワーカーズ・コレクティブの考え方や働き方を学び話し合いを重ねました。募集がなかったら出会う事のなかったメンバーの結びつきや交流センターのお客様との結びつきを深め、さらには地域の人々との結びつきにつながっていきたいという希望を込め、社



名が決定され、6月6日に「一般社団法人ワーカーズ・コレクティブむすび」が設立しました。そして店名は「むすび食堂」です。主な事業内容は、埼玉県障害者交流センター施設内「わいわい広場」での昼食時間帯の食事の提供です。

短期間での開業

メンバーは、レストランや弁当屋、福祉施設での職歴を持つ者など個性豊かで様々な特技を持ち合わせていました。それぞれの持ち味を結集させ役割を分担し合うことで、準備が進められ急ピッチで事業内容も整えられ、想いと現実のはざまの中で1ヶ月半という短い期間で開店の運びになりました。

気づき私たちの力に

オープンして1ヵ月が過ぎ、交流センターには、様々な方がみえます。

目の不自由な方へは、メニューを読み上げ、食器の位置を説明します。聴覚障害がある方には、筆談や、大きく口を開けて説明します。

人との交流を求められている職場であることや私たちが目指しているものがここにあることが日々の営業の中で見えてきました。

私たちメンバーの笑顔で「むすび食堂」を前へ進めることで、人々との結びつきにつなげていきたいと思いを膨らませています。

一般社団法人むすび 代表 大高文子

介護保険法改正「要介護1.2」へのサービスも市町村へ移行か

「介護を社会で支える」理念はどこへ

現在、全国の要介護認定者の中で介護度の重い「要介護者」は447万人、介護度の低い「要支援者」は175万人と言われています。

「要支援者」については、今まで全面的に国が対応していましたが、2018年4月からはホームヘルプ（訪問介護）とデイサービス（通所介護）は市町村の「地域支援事業」に移ります。更に要介護1、要介護2まで対象が広がる可能性があります。

また、手すりや歩行器、車いすなど福祉用具のサービスも地域支援事業に移行し、原則自己負担化が検討されています。

全国一律だったサービス内容や料金は市町村が決めることになります。市町村による格差も発生することでしょう。

住み慣れた地域で安心して暮らすために、良質なサービスの存在を把握し、生活に役立てることが自衛策になります。

保険料は払えどもサービスなし!?

知らない間に高いサービスを…

要支援1,2と認定された方への生活支援は訪問介護事業所の自主事業として1時間2,500円～3,000円の料金でのサービス提供が行われています。

「介護保険でできることはこれまで、必要ならこちらのサービスを」と差し出され、必要なら高価であっても使うことになってしまうのが実態です。今後はますますこの割合が増えることになることが予測でいます。

介護保険の利用料が1割負担であるところを、収入・資産によって2割負担となることや、介護度3以上でないと特養の利用ができないなどの改定内容は2016年より実施されています。

自分らしい高齢期を送るために

そういううちに、次の制度改定では要介護1,2に認定された方への生活支援が制度外になることが予定されている状況であり、私たちが望む「住み慣れた地域で暮らす」には介護保険があてにならない制度になってきたことが実感されます。2025年問題

(団塊世代が75歳以上になる年)として問題視されている時期を前に、保険料が年金から差し引かれる制度はあっても、使えるサービスがない状況となりそうです。要介護者になってから気付いても遅いのです。私たちは地域にある良心的なサービスの存在を把握し、それを使いこなしながら高齢期の生活を送る必要があるのではないでしょうか。

NPO法人たすけあいワーカーズ
この指とまれ！代表井瀧佐智子

ワーカーズ・コレクティブのめざす「地域福祉」

地域の居場所を運営し、制度の隙間を考える

厚生労働省が、「我が事・丸ごと」地域共生社会として、世代などに関係なく、誰もが適切な福祉サービスを受けられる社会の実現に向け、高齢者や障害者、子どもなど支援の対象者ごとの「縦割り」をなくした福祉サービス提供の仕組みをつくることを7月15日に発表しました。

それは、まさに私たちワーカーズがずっと目指してきた「地域福祉」です。これを制度で行うことは、まだまだこれからの段階ということなのでしょう。

人の暮らしは縦割りですっきり収まるようにはできていません。私たちが運営している地域の居場所には、縦割りでは対応できない様々な人が来られます。つながりを求めて利用する人たちが、安心して過ごせる、そして必要があれば相談できる、そういういた場所の必要性も制度の枠外のものです。



NPO法人てとて
(北本市)の
居場所事業の様子

小さいけれど良質なサービスを提供!! ワーカーズ・コレクティブ

制度にとらわれず必要なサービスを、 利用しやすい料金で

また、多くのワーカーズ・コレクティブでは、介護保険制度や、障害者総合支援法の制度に捉われないサービスを提供しています。家族が同居しているということで生活支援を受けられない日中独居の高齢者に毎日食事作りをしたり、障害者手帳は持っていないけれどもあきらかに生活しづらさを抱える人に対して生活についての様々な提案をしながら暮らしのための支援を行っています。私たちのサービスは、制度の枠に縛られずに、その人が当たり前の暮らしを送ることができるように、必要と思わされることをお手伝いします。制度に当てはめるではなく、この人は、どういったことがお困りなのか、何が不足していて暮らしにくくなっているのかを考えサービスの内容を提案します。しかも、利用料金は、介護保険事業所の自費のサービス（介護保険ではできない家事援助など）の1/3程度です。

いつか利用する側になることを考える

私たちのサービスは、「助け合い」という考え方があります。利用者の立場に立ち必要なサービスを提供しています。その人がその人らしく、とは良く言われることですが、それを実現するのがワーカーズのサービスであると言えます。

また、サービス提供する側もいつか利用できる、こんなサービスが必要では、と利用者目線です。誰もが自分らしく最後まで…は多くの人の願いです。それに応えるのがワーカーズ・コレクティブのサービスです。

NPO 法人ワーカーズコレクティブ てとて
代表 仲谷まり

福祉有償運送で移送サービスを実施している
ワーカーズ・コレクティブ（すべて NPO 法人）

あいのて	さいたま市岩槻区	048-689-3515
青いそら	三郷市	048-957-9600
こうさてん	鴻巣市	048-598-7614
てとて	北本市	080-3914-4146
またね	川越市	090-3137-9857

求められている送迎サービス NPO法人あいのて

所在地：さいたま市岩槻区東岩槻 2-5-26 アライビル

事業内容：・介護保険外の生活サポート・福祉有償運送・さいたま市障害児(者)生活サポート

連絡先：

048-689-3515



移送サービスで
高齢者を病院まで
送る

地域のニーズと信頼にこたえて

障害児(者)生活サポートとは、障害や親御さんの状態で登校出来ないお子さんを学校まで送迎したり、障害を持つ方を支援施設またはカラオケなどのご希望の行先に送迎したりするサービスです。障害によって様々なご要望や、一瞬たりとも目を離せない事があるので、各自治体や支援センターのバックアップ体制の元、日々勉強と経験を重ねています。

ショートステイの施設に通いたいが、通うための手段がない。と聞きます。タクシーだと、行き先が特別支援学校や障害者施設と聞いた時点で断られることもあるそうです。本年度より障害者差別解消法が施行されてはいますが、一般的なサービスを要望通りに受けるのは、まだ難しいのが現実です。行きたい所に自由に行けないがために施設と自宅の往復のみの生活になり、自立の妨げにもなっているそうです。

福祉有償運送や通常の送迎サービスでは、遠方にあるお墓参りにお連れしたり、お母さんが怪我のため、代わりにお子さんを習い事先に送迎したりなど多岐に渡ります。毎回タクシーに頼んだりするより、安心してお子さんやご高齢の方を預けられると、信頼を頂けるようになりました。今後もこのようなサービスがより求められていくと思います。

NPO 法人あいのて 副代表理事 飯塚優子

小さいけれど良質なサービスを提供!! ワーカーズ・コレクティブ

市と連携して介護予防サービスを ひまわり

所在地：草加市草加 1-18-13 連絡先：048-943-0909

事業内容：・介護保険通所サービス

・居宅介護支援事業所・ウォーキング教室

連絡先：048-943-0909

草加市との連携強化

草加市は、介護保険法改正に伴い介護予防・日常生活支援総合事業（案）として、現行の訪問・通所介護サービスのほかに、基準を緩和して使いやすくしたサービスを考えています。また、市民主体の支援による多様なサービスも市民団体とともに協議しています。

私たちは早い段階から草加市の協議会のメンバーとなり、市民主体の介護サービスの内容を打合せしてきました。

制度外のサービスを整え、地域の安心をサポート

ひまわりは現行の通所介護以外に市の委託を受けて元気サロン（介護認定のない人を1回/週）を運営していますが、現行の基準を緩和した通所サービスに参入する方向です。この場合は週に1～2回の利用に対して3,000円/回ですが、利用者負担は1割（場合によっては2割）の残りの9割（場合によって8割）は市が負担します。

訪問介護は現在行っていませんが、私たちは7月7日から、介護保険事業以外の新しい事業として「生活支援サポート事業」を始めました。これは介護保険では対応できないご利用者の生活援助すなわち掃除、洗濯、子供の世話、ペットの世話などを行う事業です。既に運営しております。

ひまわりでは、現行の基準を緩和した訪問介護サービスに参入する申請を出す予定です。この場合は利用者の負担は1割（場合によっては2割）で済み、草加市が9割（場合によっては8割）負担することになっています。

ひまわりとしては地域住民のために、介護保険が改正されても草加市と協力して要支援の人が困らないように対応したいと考えています。

ワーカーズ・コレクティブひまわり

長谷川幸雄

地域の人々の交流の場づくり「サロン」 輪っはっは

所在地：所沢市三原町 3-2971-5

事業内容：・介護保険外生活サポートサービス

連絡先：04-2943-1210

広がるつながり、継続のための事業化が課題

空いている生協の施設の有効活用から始まったサロンは地域の人々が気軽に集まり、手仕事や講座等を開催することで交流する場として多様な企画で運営しています。

月一回、編み物、ビーズアクセサリー、コンサート等の企画で開催しました。その後、ほかの団体も空き日程に企画し、からだを自分でほぐす「ほぐしサロン」、「フラワーアレンジメント」、「ブリザイドフラワー」「専門家相談」「せっけんサロン」など、複数日の開催になりました。私たちも月1回が2回になり、企画も簡単にできる、「新聞でエコバック作り」とか「ブックカフェ」とか2回目、3回目という企画もでてきて、徐々にサロンをオープンしている日が増えています。

参加者は徐々に増え、新たな交流の場として有効と思っています。まだまだ、認知度が低く、知らない人が多いのですが、継続は力なりで徐々に足を運んで来てくれています。

これからは、広報をどのようにしていくかと、どのように事業化するかが、課題だと思います。

企業組合たすけあい輪っはっは
ワーカーズ・コレクティブはな 代表 日原久美子

各地で必要とされる
居場所事業



埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 情報誌 WAVE61
〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋 1-5-3 ひゅうまんポスト2F

電話/FAX 048-844-0221

E-mail saitama.waakore@gmail.com

<http://saitama-workers.com/>

編集制作 ワーカーズ・コレクティブ ピアズねっと
1部 ¥100